

—開校 61 周年 新たなる伝統への一期生—



学校だより

平成 30 年度 第 6 号

発行日 10 月 17 日

練馬区立大泉第二中学校

校長 関 基雄

<http://www.ooizumi2-nerima-tky.ed.jp>

体育祭 見事な対応力

校長 関 基雄

9 月 29 日と 10 月 3 日 2 日間に分けて行った体育祭は、長い教員生活でも初めての経験で、変更次ぐ変更となり、まさに「筋書きのないドラマ」のようでした。予報も始めの頃は何とか体育祭まで天気はもちそうと出ていましたが、雨が続いて予行は 2 度延期となり、予行が行えたのが本番前日。翌日は雨が予想されるというのにこの日は雲一つ無い快晴です。全員が思ったことは「この天気少しは明日にとっておいてくれればいいのに・・・」ということでした。しかし、無情にも翌日は雨マークです。頼みの綱は午前中だけは何とか天気が持ちそうということ。この日のために予定を空け、お弁当の準備もして心待ちにしてくださっている保護者の方がんばっている生徒たちの姿を少しでも見ていただきたいという私たちの思いから午前中だけでも何とか体育祭を実施しようという判断に至りました。当日は競技についても学年種目と 3 年学年演技は見てほしいと競技種目を変更し、開会式でのエールの交換はなくし、退場も簡素化、競技の入退場のやり方も変更と、変更に変更を重ね何とか午前中の部をやりきることができました。さて、今度はどこまでできるのかということになり、午後の部も予定を変更し、実施予定でなかった全校応援までやったところで雨が激しくなってここで終了となりました。後日行った 10 月 3 日の体育祭。分割体育祭なんてたぶん誰も経験していないことだと思います。こちらも様々なアドリブを入れながらも盛会の内に 2 日間の体育祭を見事終えることが出来ました。

本校の体育祭のすごさは生徒のリーダーが主体となって全体を動かせることです。特に当日の応援団の動きは一切先生たちから指示は出していません。全て総団長の指示で動いているのです。こうした姿はどこでもできているわけではありません。その上に今回の体育祭で見せてくれたのは大二中の見事な対応力です。先生方の柔軟な考え方は勿論ですが、いくら先生たちが変更しても生徒が動けなければ仕方がないのですが、変更の上の変更にも不平や不満を言うことなくしっかりと対応して動ける生徒たちの力も見事でした。まさに「雨降って地固まる」のことわざのとおり雨のおかげで本校の教育力の高さを改めて示してくれた体育祭でした。

第61回 体育祭

天候が悪い日が続いたため、2回に分けての体育祭となりましたが、それでも大勢の保護者や地域の方々の参観があり、生徒はいつも以上に力を発揮し、日頃の練習の成果を全て発表することができました。毎年、PTAの役員をはじめ、100名をこえる保護者ボランティア（受付、駐輪場、パトロール）の協力をいただき、運営を支えていただきました。保護者の皆様に御礼申し上げます。



第56回練馬区中学校生徒総合体育大会入賞者 H.30.9.21(金) 駒沢オリンピック公園総合運動場

競技種目	順位	選手	記録	競技種目	順位	選手	記録
2年男子 1500m	第6位	井口拓哉	4' 42" 07	2年女子 400mR	第7位	石川 青	56" 71
2年女子走幅跳び	第2位	小畑 優	4m54			中川こころ	
共通女子 1500m	第7位	岡部こころ	5' 27" 25			苗村芽依 小畑 優	

赤ちゃんふれあい体験（地域との連携授業）

大泉子ども家庭支援センターの協力で、地域の育児中のお母さん方に来ていただき地域と連携した家庭科の授業を行いました。事前学習の日には、柳 則子所長をお招きして、子ども家庭支援センターの役割について学習しました。次回、3年生の家庭科で、クラスごとに保育体験を行っていきます。



避難拠点運営連絡会と連携した防災教育

土曜授業日に、避難拠点運営連絡会と連携した防災訓練を実施しました。1年生は、加藤勝義会長と防災課山崎係長さんより講話をいただき、避難拠点の役割や開設の仕方等を学びました。2年生は、石神井消防署大泉出張所署員、避難拠点要員、石神井消防団第六分団の方々から、防災に関する技術を身に付けるため、AEDを使った心肺蘇生法や担架を使った搬送訓練、応急処置法、発電機操作、濾過機操作を習いました。最後に、石神井消防署大泉出張所の藤野所長より、「大災害が発生すれば、中学生の力も必要になります。地域の一員としての活躍を期待します。」と励ましの言葉をいただきました。

